

# 安全マニュアル ～じゃじゃまるツアー～

経営トップが定める安全方針に基づき、スタッフ全員が安全最優先意識の徹底をはかり、一丸となりこれを徹底して実行し、ツアーの安全を確保することを目的とする。

## 1 安全管理

- (1) 船長はツアー実施の可否判断を行い、気象・海象が次に掲げる条件のときは、ツアーを中止しなければならない。  
スノーケルツアー・・・暴風・波浪警報 雷を伴う悪天候  
風速10メートル以上・波高3メートル以上・視程300メートル以下  
トレッキングツアー・・・暴風警報、川の増水が考えられるとき
- (2) ツアースタッフはいかなる理由があっても、ツアー終了まで飲酒をしてはならない。  
また、呼気1リットル中のアルコール濃度が0.15以上である間は、乗務してはならない。
- (3) 航行前の船舶の点検を怠らない。  
ガソリン補充、各種オイル点検、バッテリー容量、冷却水排出の有無等。  
また、携帯電話の充電があるかも確認しておく。
- (4) 航行中は、遊泳者や漂流物がないか常に見張りを徹底し、遊泳者やカヌー等への引き波も考慮した操縦を心がける。
- (5) 潮位を常に把握し、乗り上げやリーフ内、マングローブ林、川等で航行不可能な水位にならないように注意する。
- (6) 行ってあげたい、やってあげたいより、安全を第一にポイントを判断する。
- (7) スノーケル中、船上にスタッフがいな場合は、必ず予備のアンカーを入れる。
- (8) 救命胴衣の着用義務を怠らない。また、着岸の際、浅瀬を航行中は必ず着席してもらい、着岸時はお客様の手などが挟まれないように注意する。
- (9) 参加されるお客様には、必ず申込書を記入してもらおう。ツアーは、危険が伴うことを十分理

解して貰い、お客様自身の危機意識向上に努める。

- (10) スノーケル前に必ずお客様に伝えること
  - ・スノーケル、ライフジャケットの使用方法
  - ・ポイントでの滞在時間・遊泳時間
  - ・そのポイントの注意事項（潮流や船の航行場所、危険生物など）
  - ・時々顔を上げて、自分の場所を確認する。必ず船が見えるところで泳ぐ
  - ・潜水される方は、バディー制度（二人一組）をお願いする
  - ・船の周りでは潜らない。船底に浮上する危険がある為
  - ・浮上時は、必ず水面を確認する
  - ・風向きや潮の流れを考慮する
- (11) トレッキング前に必ずお客様に伝えること
  - ・電波が通じないので、事故時に救助応援を依頼できない
  - ・高所恐怖症かの確認
  - ・目的地までの所要時間
  - ・遂行中でも、体力に自信がないとき、不安がある時は必ず報告
  - ・落ちる場所、滑る場所、危険な場所、特に注意するところ
- (12) スタッフは、竹富町観光ガイド免許証を取得しなければならない。

## 2 海難その他の事故処理

- (1) 事故処理にあたっては、次に掲げる基本的態度で臨むこととする。
  - ・人命の安全の確保を最優先とする
  - ・事態を楽観視せず、常に最悪の事態を念頭に処置を講ずる
  - ・事故処理業務は、全ての業務に優先して実施する
- (2) 船長は、事故が発生した時は、人命の安全確保のための万全の措置、事故の拡大防止のための措置、お客様の不安を除去するための措置等を講ずるとともに、事故の状況及び講じた措置を速やかに経営トップ及び海上保安庁等に連絡しなければならない。この場合において、措置の助言を求め、援助を必要とするか否かの連絡を行わなければならない。
- (3) 船長は、自船が重大かつ急迫の危険に陥った場合又は陥る恐れがある場合は、直ちに遭難連絡、緊急連絡をしなければならない。

## 危険生物対処法

### ハブクラゲ

素手で触れないよう注意し、お酢をかけて触手を取り除きましょう。真水やアルコールは触手を刺激し更なる症状の悪化に繋がるので、使わないように注意、お酢が無ければ海水を利用しましょう。痛みが落ち着くとかゆみに襲われるのでステロイド系の強いのをぬると治りは早くなります。

### カツオノエボシ

患部を擦ったり触手を素手で触ったりするのはNGです。海水で触手を洗い流し40～45度のお湯に痛みが和らぐまで浸けます。その後は病院で手当てを受けましょう。**ハブクラゲと対処法が異なり、真水やアルコールだけでなく、お酢をかけても触手を刺激してしまうので海水のみ。**

### ミノカサゴ

目に見えるトゲは取り除き、傷口を真水で洗います。刺されたところを40～45度のお湯につけ、病院で手当てを受ける。

### ガンガゼ

トゲ抜きなどで、ていねいにトゲを抜き、痛みがなくなるまで40～45度のお湯につけます。トゲが抜けない場合は病院へ。ピンセットで抜いて後はお酢を毎日塗り込むと自然と黒い棘は消えて痕もなくなります。

### エイ

海から出て患部から毒を絞りだし、40～45度のお湯につけたら、すぐに病院へ。

### ゴンズイ

患部を真水で洗い、傷口を絞って毒を出します。40～45度のお湯につければ毒は分解されますが、どうしても痛みが激しい場合は、病院で診てもらうことがおすすめです。

### クラゲやイソギンチャクの仲間

患部を海水でよく洗い、アルコールやアンモニア水などで消毒します。水で冷やすと痛みやかゆみが緩和されます。

### ウミヘビ

噛まれて傷口から毒が入ると、呼吸のときに使う筋肉がマヒし、呼吸困難に。ひどい場合には死に至ることもあります。すぐに海から出て救急車を呼ぶこと。噛まれた患部から血を絞り出し、アルコールで消毒し、傷口の心臓寄りをヒモで縛ります。

#### **アンボイナガイ（ハブガイ）・イモガイの仲間**

刺されても痛みはありませんが、数分後に神経毒により意識がなくなり、全身マヒ、呼吸マヒなどの症状が現れます。神経毒のため、刺された時の痛みはわずかですが、歩行困難や呼吸困難に陥り、溺れてしまうケースもあります。

刺された場合はすぐに海から上がり、救急車を呼んでください。

患者は刺された自覚がないので、意識不明になるまで気がつかないことが多いようです。

異変に気づいたら、周りの人が海から上げ、救急車を呼びましょう。

#### **オニダルマオコゼ**

すぐに海から上がって、傷口を真水で洗います。その後、患部を 40～45 度のお湯につけ、急いで病院へ行きましょう。

#### **ゴマモンガラ**

傷口を消毒し出血があれば圧迫して止血し、必要があれば病院へ。

#### **オニヒトデ**

患部を真水で洗い、棘が残っていれば抜いて毒を絞り出します。40～45 度のお湯に痛みが和らぐまで浸け、必要であれば病院に行きましょう。刺されると激しい痛みを伴い、アナフィラキシーショック、アレルギーを引き起こすこともあります。

#### **アナサンゴモドキ**

痛みは軽いこともあれば強いこともあり、赤い発疹上に腫れて、かゆみが強いと引っ掻いてしまうと二次感染を起こし化膿することもあります。患部はこすらずに海水で洗い流します。その後、病院を受診し治療を受けるようにしましょう。

#### **ウンバチイソギンチャク**

お酢や真水では無く、海水をかけて触手を取り除きましょう。

#### **ヒョウモンダコ**

噛まれると短時間で患部が麻痺し、しだいに全身に広がり言語障害やけいれん、呼吸困難が起き心肺停止に至ります。すぐに救急車を呼んで傷口から血を絞り出して流水で洗い、傷口の心臓よりを縛ります。